これだけは知っておきたい

インプラント上部構造製作のために必要な情報と知識

長期に安定した機能的、審美的なインプラント治療を行うには、歯科技工士が初期の段階から治療計画に参加し、全ての症例において、単純に歯冠外形を回復させるだけではなく、補綴ならびに外科的要件を満たした診断用ワックスアップを行う必要があります。

診断用ワックスアップを行う上で、模型以外の各種情報が必要となりますが、実際は、歯科技工士は情報が少ない状態で作業を行う場合が多く、院内ラボであれば追加で情報を収集しやすいですが、コマーシャルラボではなかなか困難であることが予想されます。

また、そもそもどのような情報が必要なのか？ 歯科医師がインプラント埋入シミュレーションを行う上で、どのような項目を確認しているのか？ などの専門的な知識を学ぶ機会も少ないと思われます。

本講演ではインプラント治療に必要な情報と知識を整理し、診断用ワックスアップを行う上でのポイントについて解説したいと思います。

オールラウンダーを目指す！ とは！！ 基礎の充実！！

何ごとにも得手不得手があるように、ともに働く歯科医師にも、もちろん得手不得手があります。歯科医師に補綴分野での不得手があれば、補綴装置製作に携わるプロとして、歯科技工士が歯科医師をサポートすることが重要です。

当然ですが、広そうで狭い補綴の世界、様々な分野の知識、技術が相互に関連しています。歯科技工士に一つでも不得手な補綴分野があれば、十分なサポートを行うことはできません。

さまざまな補綴分野の関連性を明確にし、深めていくためには、基本的な知識・技術（咬合平面の設定基準、排列位置など総義歯の概念や、歯冠形態や咬合接触、咬合様式などのクラウンブリッジの概念など）が土台になってくれます。つまり、オールラウンダーを目指し続けることで足元（土台）がしっかりとし、道がどんどん開けていくと私は考えています。

講演会専門課程では、単独歯から全顎補綴装置製作、チェアサイドと連携した具体的なインプラント上部構造製作の実際や、マテリアル選択の考え方についてお話しさせていただきます。

明日からの臨床にお役立ていただけましたら幸いです。